手のひらのひみつ道具

自然・環境マネジメント研究部　環境計画研究グループ　　衛藤　彬史

私の研究分野では、ヒアリングやインタビューを通じてデータを集めることが多くあります。この聞き取り調査には、準備、実施、そして「まとめ」の 3 つの段階があります。特に「まとめ段階」では、録音した内容やメモを文字データにする作業に多くの時間と労力がかかります。

しかし最近、AI 技術の進歩のおかげでこの作業がぐっと楽になりました。たとえば、スマートフォンのレコーダーアプリは、録音しながらその場で自動的に文字起こしをしてくれます。これまで何時間もかかっていた「まとめ作業」が、今や驚くほど短時間で済むようになり、作業効率は劇的に向上しました。このように、録音内容を文字データにする作業の効率化は、国内だけでなく海外調査でも大いに役立っています。

たとえば、イタリアでの調査では、現地の方のインタビューをスマートフォンで録音し、その場で日本語で要点を確認できたため、調査がスムーズに進みました（図 1、2）。音声認識技術と翻訳技術は日進月歩でその精度を高めており、ドラえもんのひみつ道具の 1 つ「ほんやくコンニャク」を人類が手のひらに収める日は目前といえそうです。

とはいえ、この便利な道具にはちょっとした裏話があります。スマートフォンは「研究費で購入できない」というルールがあるため、研究用に使っているものの、プライベートで購入したものを使っています。この点からも、まさしく「ひみつ道具」といえそうです。

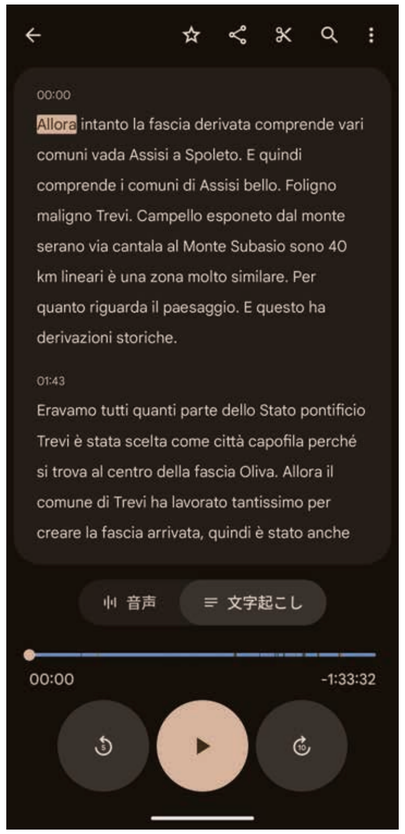

図 1　イタリア調査の際にも活躍

図 2　翻訳ソフトをあわせて使えば、通訳の補助として概要を母語で確認できる